科目番号	51027	分類		履修者	高度実践看護コース	学年
科目名	統合演習 （Integrated Practice）					2 配当ｾﾒｽﾀｰ 前期
担当者	○浦中 桂一　他	区分	必修	単位	2	時間数 カリキュラム 60 特定行為研修（実時間） 研修対応時間 59.0

授業の概要および目標	学位授与の方針と関連		
【概　要】 これまでの看護経験と学習してきた医学的知識を統合・活用し、外傷事例、内科診療事例および急変事例において実践する。さらに、チームパフォーマンスを最大限に機能させるようなリーダーシップ、メンバーシップをとることを目指す。二次救急、救急外来、ICU・病棟における診療看護師としての役割について考えることや、シミュレーション教育の知識に基づいた教育の実践に繋げることをねらいとする。 特定行為14項目について学内で事例を用いて演習・実習を行う。 【目　標】 1．患者の状況を包括的にアセスメントし、患者に必要な治療(処置を含む)を予測し、その準備、実施もしくは介助ができる。 2．診療看護師としての役割や責任を理解し、他職種との連携を図り、チームにおけるキーパーソンとして、他のメンバーを視野に入れ、自分の行動を自覚しながら協働できる。 3．目標1・2を振り返り、自己の課題を見出す。 4．シミュレーション教育に関する基礎知識を理解し、シミュレーションに臨むことができる。 5．診療録およびサマリーの記載について学ぶ。 6．手順書に基づいて各行為の演習・実習を行う。 7．38項目の手順書を作成する。	○	1	クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力
	○	2	クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力
	○	3	患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力
	○	4	専門職としての倫理的意思決定能力
	○	5	高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力
		6	臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力
	○	7	クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力

授業計画

【授業内容】
Ⅰ．シミュレーション教育
　1．二次救急のシミュレーション：
　2．救急外来のシミュレーション：
　3．病棟のシミュレーション：
　4．自己の振り返りを行い、自己の課題を見出す。
　5．診療録およびサマリーの記載

【授業方法】
・授業内容1～4
　① シミュレーションの実施　　② 医師およびNPによるデブリーフィング
　③ 自己の実践のビデオ視聴・自己の振り返り　　④ 他学生のシミュレーションの見学・記録
・授業内容5
　模擬医療面接実施後の診療録の記載、診療録や検査結果を基にした退院サマリーの作成

Ⅱ．特定行為の実践について
　・手順書の位置づけ
　・手順書の作成演習
　・手順書の評価と改良

Ⅲ．特定行為の実践について（区分別科目）
【特定研修内容】

・チーム医療の理論と演習
・チーム医療の事例検討
・コンサルテーションの方法
・多職種協働の課題

・侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法
・非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法
・人工呼吸器管理がなされる者に対する鎮静の方法

・栄養に関する評価
・胃ろう造設の意思決定ガイドライン
・胃ろう及び腸ろう造設術の種類
・胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と特徴
・胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期
・胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の方法

・膀胱ろう造設術
・膀胱ろうカテーテルの種類と特徴
・膀胱ろうカテーテルの交換の時期
・膀胱ろうカテーテルの交換の方法

・急性血液浄化療法における透析の目的
・急性血液浄化療法に係る透析の適応と禁忌
・急性血液浄化療法に伴うリスク（有害事象とその対策等）

・糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント

・病態に応じたインスリンの投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等）
・外来でのインスリン療法と入院の適応
・インスリン療法に関する患者への説明

・病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）
・持続点滴中の降圧剤の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等）

・病態に応じた各種糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）
・持続的点滴中の糖質輸液、電解質輸液の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等）

・病態に応じた利尿剤の調整の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）
・持続的点滴中の利尿剤の投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等）

・主要な神経疾患のフィジカルアセスメント
・主要な精神疾患の面接所見
・神経学的検査
・心理・精神機能検査
・精神・神経系の臨床薬理（副作用、耐性と依存性を含む）

・病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）
・抗けいれん剤の投与のリスク（有害事象とその対策等）

・病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準（ペーパーシミュレーションを含む）
・抗精神病薬の投与のリスク（有害事象とその対策等）

・病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準（ペーパーシミュレーションを 含む）
・抗不安薬の投与のリスク（有害事象とその対策等）

・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射の適応と使用方法及び投与量の調整
・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの病態生理
・抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの症候と診断（ペーパーシミュレーションを含む）

事前･事後学習	事前学習：事前講義、オリエンテーションの内容を把握し演習に臨む。また、下記参考図書、primary surveyと蘇生、FAST、胸痛、腹痛、呼吸器フィジカルアセスメント、リーダーシップ理論、team-STEPPS®について十分に学習し、一通り問診、身体診察ができるようにしておくこと。 事後学習：参考図書やガイドラインを用いて事後課題に取り組み提出する。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。
評価の方法	演習への取り組み、シミュレーションの実践、事後課題から総合的に評価する。フィードバックは適宜行う。
参考図書･資料等	外傷初期診療ガイドライン（JATEC）、 急性冠症候群（ACS）ガイドライン、 敗血症ガイドライン ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。
履修要件	全時間出席すること
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。